令和5年度の「区民と区長のタウンミーティング」に出された意見の反映状況

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
5月25日	外国籍の方々が街中に増えているように感じる。日本語教室を充実するとともに、外国籍の方が気軽に相談できる場所が必要だと思う。また、イベント等を通して、国籍を問わずに交流できる機会があるといい。	中野区国際交流協会が行っている日本語講座や中学生集中日本語教室の充実のほか、昨年度より新たに鷺宮、弥生地区に地域日本語教室を設ける等、日本語教育の推進に取り組んでいる。日本語教室の地域展開により相談拠点の一助となることを見込まれる。また、地域団体の協力を得て、外国人が地域での行事に参加、交流できる機会とするなど、多様な交流の機会を設けている。
5月25日	地域内での住民同士のつながりが薄いと感じる。特に集合住宅に住んでいると、地域との関わりを持つ機会が少ない。地域住民同士で集まれるイベントの開催等、住民同士がつながるきっかけを作してほしい。	町会・自治会活動の活性化助成を行うとともに、不動産関係事業者等と連携し、町会・自治会への加入促進を図っている。町会・自治会の活動を通じて、住民同士のつながりが広がるよう区として支援を行っていく。
5月25日	中野駅にエレベーター等がなく、不便を感じる。今後再開発が進んでいくと思うが、中野駅のホームへのエレベーター、ホームドアを設置するほか、駅前のタクシー乗り場を障害があっても利用しやすいよう、バリアフリー化してほしい。	令和8年に完成予定の中野駅西口改札の整備にあわせて、エレベーターが設置されるほか、駅設備の拡充に合わせてホームドアが設置される予定である。また、今後整備される新北口駅前交通広場は、乗り換えのしやすい整備を行うものとして、ユニバーサルデザインに配慮したいいつでも・誰もが安心・快適に利用できる空間としていく。
5月25日	中野区でも地域通貨を導入するなど、商店街に行きたくなくなるような施策を実施することで、地域の活性化をしてほしい。	中野区デジタル地域通貨事業については、令和6年度の導入に向けて検討を現在進めているところである。また、商店街施策についても、引き続き、各商店街関係者とも協力しながら、地域活性化につながる事業を進めていく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
5月25日	中野は交通面の利便性が高いまちだが、子育て世帯向けの住宅が少なく、家賃が高いと感じる。ファミリー向けの住宅を増やすなど、子育て世帯が住み続けやすいまちになってほしい。	子育て世帯向けの適度な広さの質の高い住宅を供給・誘導するため、「中野区集合住宅の建築及び管理に関する条例」に基づき、一定規模以上の集合住宅におけるファミリータイプの住戸の供給を促進している。また、良好な子育て環境を形成するために、公営住宅等の建替にあたっては、子育て支援施設の整備誘導等を行っている。加えて、子育て世帯を含む住宅確保要配慮者の民間賃貸住宅への円滑な入居を促進するため、居住支援協議会の運営を支援し、住宅部門と福祉部門とが連携し、民間賃貸住宅のオーナーと入居者双方に対する情報提供や支援に取り組んでいる。
5月25日	低学年のうちから多様性を肌で感じてもらうことで、多様性を受け入れるようになる。障害を抱えた子どもたちも普通学級に在籍し、ついていけない授業だけを特別支援学級で受ける等、柔軟な対応をしてほしい。	就学相談では、障害の状態や本人の教育的ニーズ、本人、保護者の意見、教育学、医学、心理学の専門的知見からの意見、学校や地域の状況を踏まえた総合的な観点から、お子様にとって適切と思われる就学先を提案している。また、通常の学級と特別支援学級のどちらに在籍していても、交流及び共同学習等において、障害の有無にかかわらず児童・生徒がともに学ぶことができるような活動の充実を図り、誰もが互いに尊重し支え合い、相手を認め合う態度の育成に取り組んでいく。
5月25日	学校では教育のICT化によって、子どもたちがデジタル端末の画面を見る時間が増えている。子どもたちの視力低下につながる恐れがあることを考慮し、対策を考えてほしい。	これまでの実態調査の結果や保護者の皆様からのご意見等から、タブレット端末の利用時間については課題があると認識している。今後、学校と連携を図り、タブレット端末活用の利点だけでなく、子どもたちの視力低下につながらないような活用方法について伝えていく。
5月25日	子どもたちの安全と食育のために、学校給食に無農薬野菜や添加物の無い食材を取り入れてほしい。また、給食費の無償化を実現してほしい。	各学校において給食食材には地場産物や国産食材を調達しており、そのうえで、有機農産物の一部を使用している学校もある。また、保護者負担軽減のため、区立学校において給食費は徴収しない予定である。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
5月25日	児童虐待に対して早期発見・早期対応できる体制を整えてほしい。	児童虐待については24時間365日、通告・相談を受け付けている。相談事業や各種事業を通じて虐待の未然防止に努めながら、各関係機関とも連携しつつ早期発見、早期対応できる体制を整えている。今後も継続していく。
5月25日	子育てに関する各種手続きや相談は、全てオンライン申請・オンライン相談に対応できるようにしてほしい。	子育てに関する各種手続きや相談は、デジタル技術を活用しながら、オンライン申請・相談の拡充に向けて検討していく。
5月25日	普段運動をしない人たちでも気軽に参加できるスポーツやイベントがあると、それをきっかけとして多くの人がスポーツに興味を持てるのではないか。	区内スポーツ施設において、スポーツ教室やイベントを開催しており、様々な種目や初めての方でも参加しやすい内容のプログラムを利用できる。また、自宅で手軽にできる動画配信サービスも行っている。引き続き多くの方が興味や関心を持てる事業を実施していく。
5月25日	学校跡地の活用を進めてほしい。具体的にはスポーツができる広場の整備や、障害を持つ方たちの居場所の1つとするなど、様々な活用ができると思う。	学校跡地の活用については、大規模施設の整備・誘導、公共施設の移転、集約化・複合化、防災まちづくり用地、公園等の活用などを検討していく。
5月25日	高齢者の生きがい・活躍のためにも、やりたいことができる多様な居場所があってほしい。また、若者が高齢者と交流する機会があると、双方にとって学びや活躍の機会になると思う。	高齢者の生きがいづくりのため、ホームページや「あなたの近くの通い場マップ」などによる地域の居場所や活動の周知及び参加促進の取組を充実させる。特に、男性は地域の居場所や活動につながりにくい傾向があるため、それまで培った技術や経験が活かされるような活躍の場を創出するとともに、そうした場への誘い方を工夫し、現役世代からの意識づくりや現役引退後の地域デビュー支援に力を入れていく。 また、公益活動団体への様々な支援を通して、高齢者、乳幼児親子、小中学生等それぞれの世代に特化した公益活動団体が交流する機会を設けるなど、団体間において多世代がつながり、そしてそのつながりを広げる支援をさらに行っていく。

開催月日	区 民 の 意 見 (趣 旨)	反 映 状 況 (区 の 考 え 方)
5月25日	生活困窮者への支援は、お金や物を配ることも大事だが、就労支援をはじめとした、当事者に寄り添う、自立に向けた支援体制が必要だと思う。	生活に困窮された方等を対象に中野くらしサポートによる自立相談支援、生活保護受給者を対象とした精神保健福祉支援プログラム等各種自立支援プログラムを行っている。今後も引き続き、一人ひとりの状況に合わせた支援を実施していきたい。
5月25日	西武新宿線沿線のまちづくり、連続立体交差化事業は地元住民の意見を聞きながら進めてほしい。	西武新宿線沿線のまちづくりはこれまで地元まちづくり検討組織等と協働しながら進めてきた。今後も地域住民の方と意見交換を行っていく。
5月25日	中野サンプラザ跡地へ建設する建物を含めて、中野駅周辺のまちづくりでは、環境負荷の低い施設・まちにしてほしい。	新北口再整備の拠点施設は、環境性能についてZEB Orientedの認証取得を実現する予定であり、施設計画が具体化していくに従い環境配慮の視点についても盛り込んでいく考えである。脱炭素に向けた定量指標として、代表建築物に関する環境配慮計画を建物の規模に応じて作成することとなっており、建築物の省エネ性能をはじめ、具体的に示していく予定である。
5月25日	中野は自転車が多く、特に中野駅周辺を歩いていると危険を感じる人が多い。歩行者と自転車を分離する道路整備や自転車マナー講座を実施するなど、ハードとソフトの両方の施策を進めてほしい。	警察署との連携による自転車安全利用講習会や交通事故防止に向けた啓発活動のほか、各種キャンペーンを行っている。今後もこうした取組により、自転車利用者の運転マナーや交通ルールの周知を図る。また、中野駅周辺においては、歩行者優先・公共交通指向の道路・交通ネットワーク構築の観点から交通動線の整備を行い、まちの安全性と快適性の向上を図っていく。
5月31日	地域の人と関わる機会が少ない。国籍を問わずに参加しやすいイベントやお祭りをもっと実施してもらえると、交流やコミュニティ作りのきっかけができると思う。	中野区国際交流協会を通じ、国際交流フェスタや野外交流、スポーツ交流、夕涼み会、料理講習会等、国籍を問わず参加できる国際交流イベントを実施してきた。今後も令和5年にオープンしたなかのZERO本館にある「アトリエZERO」における事業なども含め、国籍を問わず参加しやすいイベントを充実させていく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
5月31日	自分たち外国籍の住民は、SNSを活用し、好きなものを通じて、様々な人たちとつながるきっかけを作っている。行政からの情報発信も、積極的にSNSを使って発信してもらえると、自分たちも情報を得やすくなると思う。	外国人が安心して暮らしていくための支援情報等について、区内に生活している外国人に対して必要な情報が十分に届くようSNSを活用した情報発信の推進に取り組んでいく。
5月31日	日本語をもっと勉強したいと思うが、学ぶことができる場所や機会が少ない。	中野区国際交流協会を通じてこれまでも日本語講座や地域における日本語教室の充実に取り組んできた。今後もより効果的な日本語教育のあり方の検討とともに学習機会の情報発信の強化に努めていく。
5月31日	日本語を学んでいても、行政文書の漢字はどうしても読むのが難しい。イラストを活用したり、漢字にルビをふるなど、読みやすくなるような配慮をしてほしい。	外国人と日本人がコミュニケーションを取る際に有効であるやさしい日本語の活用及び普及啓発については、職員研修や広報物のやさしい日本語版の発行等において取り組んできている。今後もやさしい日本語による情報発信や、行政文書等のやさしい日本語化を推進していく。
5月31日	外国人向けの相談窓口があっても、言葉が通じるか不安なところがある。また、知らない人に相談するのは、抵抗がある。	新庁舎開庁時に、外国人相談窓口を開設する。外国人からの日常生活の困りごとや悩みごとに多言語で対応できる相談員を配置し、必要な助言や支援等を行い、外国人が安心して暮らしていくための相談体制の充実化を図る。
5月31日	ごみの出し方が細かく、分かりづらいと感じる。ルールをもっと分かりやすく示してほしい。	資源・ごみの分別方法については、「資源とごみの分け方・出し方」を改定し、令和6年2月以降に全戸配布する予定である。また、ごみ分別アプリに加え、令和5年2月より、ごみの分別などに対話形式で回答する「ごみ分別チャットボット」の運用を区ホームページ上で開始したところである。今後も、分かりやすい情報発信に努めていく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
6月24日	中野区では地域で暮らす外国人との関わりが希薄であるとの声が多い。そこで、中野区と姉妹都市関係を結ぶ韓国のソウル市陽川区と、学生同士で交流する機会があった方がいい。学生の交流を通して、お互いの文化を理解し、多文化共生社会の実現に向けた議論をしたい。	お互いの文化を理解し、多文化共生社会の実現に資するよう区内に住む留学生などの外国人との交流のきっかけづくりを行っていきたい。韓国ソウル市陽川区との交流についても機会をとらえて検討していく。
6月24日	学生同士の交流にあたっては、お互いの伝統的なお祭りやイベントへの参加や、スポーツの体験などをも、文化を知り合う良い機会になると思う。	中野区国際交流協会を通じてこれまでも国際交流フェスタや野外交流、スポーツ交流、夕涼み会、料理講習会等、国籍を問わず参加できる国際交流イベントを実施してきた。今後も区内大学などの協力を得ながら、学生同士がイベントやスポーツ体験などを通じて交流できる場の充実に向け努めていく。
6月24日	自分たちは「明中ブランドを確立しよう」をスローガンに、小松菜の水耕栽培や制服のリメイクなど、製品の企画・製作に取り組んできた。しかし、販売や流通には着手できておらず、ノウハウがない。東北応援祭りなど、中野区主催のイベントへ参加・出店させてもらい、販売のノウハウを学ぶ機会にさせてほしい。	なかの東北絆まつりは、同まつり実行委員会により、東北各県と中野区の絆を深めるとともに、中野区民や区内事業者の参加を促し、中野の賑わい創出に寄与することを目的として開催している。同まつりに、いただいたご要望の趣旨に沿って参加いただく方法等について、検討してまいりたい。
6月24日	自分たちは現在、日本ミツバチの養蜂に向けて企画をしている。蜜源になる植物を植えることで緑化が進み、最終的に中野区産はちみつを販売できれば、全国的にアピールできる取り組みになると思う。しかし、養蜂場所の確保や地域住民への理解・協力を得る部分で課題が生じている。ぜひ中野区と協力して取り組みを進めたい。	他自治体において、地域活性化プロジェクトとして養蜂事業に取り組んでいる事例は把握している。養蜂業に関する創業相談があった場合には、東京都や関係機関と連携し支援していく。また、区はみどりの基本計画に基づき、区内全体の緑化に努めていく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
6月24日	現在、中高生はSNSを中心に交友活動をしている。一方、友人と直接会って遊ぶ機会の減少や体力の低下など問題がある。また、中野区には小学生以下の遊び場の数と比較して中高生の遊び場や居場所が不足している。そこで、中高生が外で友人と直接会って遊んだり勉強したりすることができる施設を整備することで、これらの問題の解決の糸口とできるのではないか。	中高生世代が自由に過ごせる居場所が不足していると認識しており、中高生世代のニーズに対応する機能を特色とする児童館への移行や、中高生世代の交流・活動支援の場の検討を進めている。中高生機能を強化した児童館については、軽運動やダンス、音楽活動(楽器演奏や歌)などの中高生のニーズに対応した施設にするとともに、おしゃべりや交流のための談話スペースや学習スペースを設置することを検討している。また、児童館の運営に子どもたち自身が参画し、地域団体との交流や地域イベントを企画実施するなど、より魅力的な中高生の居場所づくりを進める。
7月13日	日曜・祝日に遊びに行ける児童館や子育て広場が近くにない。ふらっとサンデーを全館で実施するなど、開放日を増やしてほしい。	児童館の現在の日曜利用の形は暫定的なものと考えている。今後は、児童館の開館日、開館時間の拡充とあわせて、小学生や中高生の居場所を確保していくとともに、より魅力的な運営となるよう検討を進めていく。
7月13日	児童館の日曜開放が始まったが、利用できる部屋が限られてしまっている。日曜開放時の開放する部屋も増やしてもらえると良い。	児童館の現在の日曜利用の形は暫定的なものと考えている。今後は、児童館の開館日、開館時間の拡充とあわせて、小学生や中高生の居場所を確保していくとともに、より魅力的な運営となるよう検討を進めていく。
7月13日	児童館には大きい子が遊べる設備やおもちゃが少なく、児童館離れが進んでいるのではないか。	今後の児童館運営においては、子どもの年代別のニーズを踏まえたおもちゃ・遊具、本・マンガ、イベントなどを充実していく。
7月13日	じゃぶじゃぶ池の開放期間が短い。暑い時期が長期に及んでいるので、開放期間を長くしてほしい。	じゃぶじゃぶ池は、夏休みを中心に7月下旬から8月下旬までの約1ヵ月間としており、栄町公園、丸山公園では8月末まで延長している。そのほか、中野四季の森公園、広町みらい公園、平和の森公園では、指定管理者がじゃぶじゃぶ池より長い期間で水遊び場の開放を行っている。今後も利用しやすい水遊び場の提供に努めていく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
7月13日	公園再整備のオープンハウスでは、子どもたちの声が反映されて嬉しかった。これからも、子どもたちの声を公園整備に取り入れてほしい。	公園再整備による整備では、近隣の子育て関連施設や現地でオープンハウスなどにより公園利用者からの意見聴取を行っている。今後も多様な意見を聞きながら、だれもが利用しやすい魅力的な公園づくりを進めていく。
7月13日	公園でサッカーやバスケットなどのボールを使った遊びや、スケートボードができる場所を増やしてほしい。	令和4年3月に策定した公園再整備計画に基づき、公園の利用ルールを見直している。令和4年12月から、全ての公園でのゴムボール遊びや自転車等に乗るための練習ができるようにするなど、一部のルールを緩和している。今後も多様な意見を聞きながら、だれもが利用しやすい魅力的な公園づくりを進めていく。
7月13日	芝生や木が多くある、広い公園を増やしてほしい。	公園の再整備に際しては、オープンハウス等で意見を聞きながら、みどりの確保に努めていく。
7月13日	どこの公園にも似たような遊具が多い。公園ごとに特色のある遊具、乳幼児でも楽しめる遊具や泥遊び場などを配置することで、より楽しめる公園になると良い。	公園再整備による整備では、現地でオープンハウスなどにより公園利用者からの意見聴取を行っている。今後も多様な意見を聞きながら、だれもが利用しやすい魅力的な公園づくりを進めていく。
7月13日	外遊びの仕方が分からない子どもが多い。プレーパークの開催回数や開催場所を増やせないか。	子どもの自由にやりたいことができる遊びを実現し、多様な交流や体験を得られる地域の居場所として、常設プレーパークの設置に係る検討を進めている。 区立江古田の森公園内にて、令和6年度の試行実施を経て、子どもや保護者、地域の意見・ニーズを捉えて、プレーパークの運営や工事内容に反映し、令和7年度の開設を予定している。 既存のプレーパーク活動団体については、開催回数や開催場所を増やせるよう引き続き運営の支援及び普及啓発を行っていく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
7月13日	室内で遊べる場所がほしい。体を動かせる場所や、子どもたちが集まってゲームができたりする場所があると、雨の日や夏休み中などの子どもたちの居場所になると思う。	屋内の子どもの居場所・遊び場のニーズが高いことは区としても認識しており、区内18館の児童館については0歳から18歳までの全ての子どもとその保護者を対象とした施設として、利用者のニーズを踏まえた開館日時の拡充や利用ルールの見直しを行っていく。
7月13日	中野駅の周辺に、子どもと遊べる場所が増えてほしい。	中野駅新北口駅前再整備における拠点施設整備では、必要な機能として「親子が楽しめる機会と空間の創出」を行うものと位置づけており、区の権利床を活用して子育て世帯が安全・安心に利用できる子どもの遊び場(屋内施設)を整備することで検討を進めている。
7月13日	中高生達の居場所、特に勉強できるような場所を増やしてほしい。	中高生世代が自由に過ごせる居場所が不足していると認識しており、中高生世代のニーズに対応する機能を特色とする児童館への移行や、中高生世代の交流・活動支援の場の検討を進めている。 中高生機能を強化した児童館については、軽運動やダンス、音楽活動(楽器演奏や歌)などの中高生のニーズに対応した施設にするとともに、おしゃべりや交流のための談話スペースや学習スペースを設置することを検討している。 また、児童館の運営に子どもたち自身が参画し、地域団体との交流や地域イベントを企画実施するなど、より魅力的な中高生の居場所づくりを進める。
7月29日	児童館での一時預かりの実施施設を増やしてほしい。普段通り慣れている場で預かってもらえると、子どもにとって抵抗感なく、利用することができる。また、給食の提供もしてほしい。	区有施設を活用した一時預かり事業については、施設の建て替え等を進めていく中で、実施スペースの確保、効果的・効率的な事業スキームを検討していく。
7月29日	区立保育園だけでなく、私立保育園の一時保育も一括で予約できると良い。	区立保育園の一時保育で運用しているLINEをweb上で一覧できるのは利用者にとって利便性が高いと考えるが、私立保育園の中には独自の予約システムを使用しているところもある。今後、私立保育園と協議しながら検討していく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
7月29日	病児・病後児保育は利用可能な施設が少ない。特に病児保育は江古田にある1箇所のみで実施しており、区南部に住む家庭はほぼ利用できない。実施施設を増やしてほしい。	施設における病児・病後児保育については専用スペースと専門職の確保が必要であり、早期の整備は難しい。ファミリーサポート事業やホームヘルプサービス事業をご活用いただくほか、ベビーシッターの一時預かり利用については、令和6年度中に利用対象を未就学児まで拡大する予定であるため、あわせてご活用いただきたい。
7月29日	子どもが急に体調を崩し、当日・翌日に病児保育が必要になったとき、手続きが煩雑で利用することが難しい。突発の利用がしやすくなってほしい。	病気の回復期や回復期に至らない状態のお子さんを病児及び病後児保育室で安心安全に保育するため、お子さんの状況を直近で確認する必要があると考える。一方で、利用手続きが保護者の負担となっていることも認識している。今後利用しやすい仕組みを検討していく。
7月29日	就園児がいる家庭でも、ベビーシッターの一時預かりを利用したい。親が病気の際にベビーシッターを使えるようになると良い。	令和6年度中に、現在、未就園児のみを対象としているベビーシッター利用支援事業(一時預かり利用支援)の対象を未就学児全員に拡大 予定である。
7月29日	保育園や児童館の一時預かりだと都度予約が必要で、利用しづらい。週に2、3回程度の頻度で、定期的な預かりを利用させてもらいたい。	区有施設を活用した一時預かり事業については、今後の施設の建て替えを進める中で、実施スペースの確保、効果的・効率的な事業スキームを検討していく。 また、保育園で実施する一時保育事業については、実施施設の拡充を予定しているほか、ベビーシッター利用支援事業の対象を未就学児まで拡大を予定している。今後も子育て世帯の利便性向上に向けた施策を検討していく。
7月29日	当日急に預かりが必要になることがある。短時間でも、予約なしで預かってくれるようなサービスがほしい。	中野区で実施中の一時預かり事業について整理し、区民にとってわかりやすく、利用しやすい事業としていく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
7月29日	ファミリー・サポートは利用までの手続きが煩雑。登録会への参加が必須なうえ、利用の2週間前迄に申込みをしなければならない。協力会員とのマッチングを改善し、利用前日でも申込みできるようにしてほしい。	ファミリーサポート事業は利用会員と協力会員の相互援助活動であるため、手続きについてはご理解いただきたい。なお、マッチングに関しては改善に向け検討していきたい。
7月13日 7月29日	(子育てハンドブック「おひるね」について) 健康診断や予防接種など、母子手帳に載っているような情報の掲載は不要ではないか。	掲載項目について、区民の声を取り入れ、区が行う区民サービス全体とのバランスをとりながら今後も検討していく。
7月13日 7月29日	(子育てハンドブック「おひるね」について) 児童館や子育てひろば、すこやか福祉センターはどんなところで、どんな機能があるのか、紹介するページを設けてほしい。	2023-2024年度版に紹介ページを設ける 予定である。
7月13日 7月29日	(子育てハンドブック「おひるね」について) 子どものことだけでなく、親自身の困りごとを含めて、どんな悩みを、どの窓口に相談できるのか分かりやすく載せてほしい。	2023-2024年度版に相談窓口をまとめて掲載するページを設ける 予定である。
7月13日 7月29日	(子育てハンドブック「おひるね」について) 文字が多いと読みづらい。図や写真、マンガやイラストを多用して、読みやすい冊子にしてほしい。	2023-2024年度版については、文字を減らし、イラストや写真を増やすことを心掛けて作成する 予定である。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
7月13日 7月29日	(子育てハンドブック「おひるね」について) その他、以下の情報を分かりやすく載せてほしい。 ・ハローママの会、ママの集いの場、パパ向けの情報 ・ミニリーダーの活動内容、地域の子育て支援団体 ・障害児への支援制度 ・赤ちゃんほっとスペースや子ども連れの親を歓迎してくれる飲食店 ・ベビーシッターや一時預かりの実施情報	掲載項目について、区民の声を取り入れ、区が行う区民サービス全体とのバランスをとりながら今後も検討していく。
7月13日 7月29日	(子育てハンドブック「おひるね」について) 妊娠届の提出時に「おひるね」をもらっているが、同時にもらう書類や冊子が多く、読まれていないのではないか。もう少し後の時期に配布できないか。	配布時期について、区民の声を取り入れ、区が行う区民サービス全体とのバランスをとりながら今後も検討していく。
7月13日 7月29日	各記事にQRコードを付け、詳しい情報はホームページで確認できると良い。	2023-2024年度版については、文字数の多い記事などにQRコードを使用した。
7月13日 7月29日	(子育てハンドブック「おひるね」について) WEB版の「おひるね」を発行し、情報を検索しやすくしてほしい。URLや記事にホームページのリンクが付けられていると良い。	記事内に中野区子育てサイト「おひるね」のQRコードを使用し、WEBでも情報確認ができる予定である。
7月13日 7月29日	(子育てハンドブック「おひるね」について) 情報ばかりで、いざというときにしか開かない。「こんな時には、ここをみるといい」といったフローチャートを載せるなどして、読んでもらう・手に取ってもらうための工夫を。	読んでもらうための工夫について、区民の声を取り入れながら今後も検討していく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
7月13日 7月29日	(子育てハンドブック「おひるね」について) 施設の住所が書かれていても、どこにあるのか分からない。「病院」「子どもの遊び場」「子どもの預かり先」など、カテゴリごとにマップを作り、自宅付近でどんな施設があるのか、分かりやすくしてほしい。	マップの作成について、区民の声を取り入れながら今後も検討していく。
7月13日 7月29日	(子育てハンドブック「おひるね」について) 施設のイメージがわかりやすいように、児童館や公園などは写真を大きく載せてほしい。	施設イメージがわかりやすい記事作成について、区民の声を取り入れながら今後も検討していく。
7月13日	一時預かりや習い事などの有料子育てサービスに使える「子育て応援券」を発行して、子育て家庭の支援をしてほしい。紙のチケット制ではなく、電子マネーのような形式でもらえると嬉しい。	かんがる一面接の際に配付している子ども商品券は、ファミリーサポート事業や習い事などにも使用できるものとなっている。商品券のデジタル化については、今後検討していく。
7月13日 7月29日	子どもが遊びに行く施設(公園、児童館など)のトイレにはお着換えボードを設置してほしい。	児童館の改修において、子どもがより使いやすいトイレとなるよう対応する。 また、公園トイレは、車椅子等対応トイレ(ユニバーサルトイレ)への更新を優先的、計画的に行っている。今後も、多様な利用者のニーズに配慮した公園トイレづくりを進めていく。
7月20日	区民が家庭の家電製品を、新しい省エネ性能の高い家電製品に買い替えることで、電力消費が抑えられ、高いCO2削減効果を出すのではないかと。例えば、行政から区民に対し、古い家電製品の買い替えに対する補助金や電気自動車の購入に対する補助金を出すことによって、そのきっかけ作りができると思う。	区では現在、省エネ設備の設置に対する補助を実施している。高いCO2削減効果があるが設置が進んでいない設備について、設置の促進に向けて補助を実施していく考えである。家電の買換えについては、都の補助の周知等を通じて、普及啓発を図っていきたい。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
7月20日	行政から区民に対して、どのような行動がCO2削減に効果的か、正しい情報や知識を教えてもらえると、個人への良い意識付けになると考える。個人の取り組みや行動が、どれだけ環境に良い影響を与えたか、ゲーム性を取り入れた形で成果が数値で分かる仕組みが取り入れられないか。	なかのエコフェアやパネル展などを通じ、個人の取り組みや意識付けについて普及啓発活動を実施している。今後も継続して実施していきたい。
7月20日	これから再開発が進むなかで、区民は環境への影響に興味が出てくると思う。中野区の脱炭素社会に向けた取り組みや情報を、共有できる場所を作ってほしい。	区は現在、なかのエコフェアやパネル展などを通じて、区の実情や情報を提供・共有している。今後は、区民の関心の高まりを捉え、こうした情報提供等の充実を図っていきたい。
7月20日	落ち葉や剪定枝を収集し、ごみとして焼却せずに堆肥化すると、焼却するCO2の排出を押さえることができ、また堆肥として活用することができるので、検討してほしい。	落ち葉や剪定枝の堆肥化については、他自治体での実施効果や活用方法を参考に検討する。
7月20日	30年後に目指す脱炭素社会に向けて、次世代への教育が必要だと考える。学校などでの教育活動を通じて、子どもたちへの意識付けをしてもらいたい。	区立小中学校において、二酸化炭素排出量削減に関する取組について理解を深め、児童・生徒が実践できる取組を推進する。
7月20日	中野区内の再開発時に建設する建物は、建物内でエネルギーの消費量を正味ゼロにするZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の実現を義務付けてほしい。	国は、建築物省エネ法における省エネ基準の段階的な引き上げを行っており、2030年度以降に新築される建築物については、ZEB水準の省エネ性能の確保を目指し基準の見直しを行う予定としている。区は、省エネ設備の設置に対する補助や普及啓発の充実など、効果的な対策について検討を進めていく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
7月20日	他の地方自治体と、森林整備などの環境に関する取り組みの協力を一層進めてほしい。中野は環境以外の分野でも、様々な自治体と連携をしている。それらの自治体と、環境分野での提携もできるのではないか。	区は現在、なかの里・まち連携自治体である福島県喜多方市及び群馬県みなかみ町との間で、中野の森プロジェクト事業を展開している。今後も事業を継続し、連携していきたい。
7月20日	中野区内には、再生可能エネルギーを生産できる大規模な場所が無い。他の地方自治体や企業と連携し、地方で生産した再生可能エネルギーを中野区内に供給してもらうような仕組みづくりをしてはどうか。	脱炭素社会の実現に向けては、再生可能エネルギーの活用促進を図る必要があることを認識している。供給の仕組みについては、国やエネルギー事業者等の動向を踏まえ、中野の地域特性にあった仕組みを検証していく。
11月9日	特別支援学校に通いながら、副籍交流で区立学校に行くことがあるが、受け入れる学校側の施設や環境が整っていないことが多い。また、個人単位で学校に行っても、子ども同士の交流はあまりできていないように感じる。子ども同士の交流を1つの行事として、学校間交流のように実施すれば、親・子・学校の負担を少なくしながら、よりよい交流ができると思う。	新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したため、児童・生徒や学校の実態に応じて、直接交流や間接交流を適切に実施することができるよう、学校に呼びかけていく。また、学校間交流のような方法についても検討していく。
11月9日	通常学級に知的障害のある子どもが通っても、介助員などによる支援を受けられない。インクルーシブ教育を目指すのであれば、各学校に介助員を配置するように制度化してほしい。	特別支援教育に係る支援員は基準に基づいて各校に配置している。今後も引き続き適正な配置に努めていく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
11月9日	小学校に通うために子どもをバスに乗せているが、バスに看護師さんが同乗できないときは保護者が学校まで同乗する必要がある。安心して就労することができないうえ、他の兄弟児で体調不良等があると、その子まで学校を休ませることになり、就学の機会を奪うことになってしまっている。通学バスにはいつでも看護師さんを配置してもらう等、安心して学校に通わせられる体制にしてほしい。	医療的ケア児が特別支援学校に通学バスで通う際、保護者の代わりにバスへ同乗するガイドヘルパーを派遣し、登下校時の送迎を行えるよう制度を拡充する予定である。
11月9日	ユニバーサルデザイントイレの普及が進んでおらず、子どもとの外出をためらってしまう。公園や商業施設などの様々なところに設置されたり、設置場所が事前に分かれれば、もっと地域に出ていきやすくなる。	公園トイレは、車椅子等対応トイレ(ユニバーサルトイレ)への更新を優先的、計画的に行っている。今後も、多様な利用者のニーズに配慮した公園トイレづくりを進めていく。 また、区内施設のバリアフリー情報については、中野区公式ホームページ内に掲載している「バリアフリーマップ」で確認することが可能である。設備を必要とする方が利用イメージを持ちやすくなるよう、写真や各設備の掲載情報を見直し、令和6年1月末にバリアフリーマップのリニューアルを行った。 今後も引き続き、定期的な掲載情報の更新や掲載施設の追加等を検討しながら、バリアフリーマップの充実に努めていきたい。
11月9日	障害のある子どもが、障害のない子どもと一緒に遊べる場所が少ない。障害があっても、気兼ねなく児童館や公園で遊べるようにしてほしい。	児童館の大規模改修にあたって、施設の状況に応じて可能な限りバリアフリー対応し、誰もが安全・安心に利用できるよう配慮した運営を行う。 公園においては、老朽化等により遊具を更新する際には、だれもが遊べる遊具の導入も検討していく。また、(仮称)上高田五丁目公園では、「だれもが遊べる児童遊具広場」の整備を目指しているところである。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
11月9日	これから中野区はまちづくりで大きく変わっていく。バリアフリーなまちにしてもらうことはもちろん、再開発ビルの中の1つの施設として、放課後デイサービスや相談できる場所などの障害のある子どもや家族向けの場所があってもいいのではないか。	放課後等デイサービス事業所は、障害や発達に課題のある子どもに対し、生活能力の向上のために必要な訓練等を行う施設である。今後、放課後等デイサービス事業所以外にも、障害のある子どもの預け先を含めた居場所づくりについて総合的に検討していく。
11月9日	療育や放課後デイサービスを受けられる施設が少なく、家から遠い。問い合わせると利用できないことが多い。利用できても区内の北か南に施設があるため、自宅や学校から施設までの移動が負担になっている。また、発語などの専門的な療育を受けようとすると、遠くの他自治体に行く必要があり、親の負担が大きい。どの地域に住んでいても、療育などが受けられるよう施設整備してほしい。	令和5年度内に複数の児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所を新規に指定する予定である。今後も、施設数の増のため、新規開設を検討する事業所への働きかけを積極的に行っていく。区立療育センターは、民間事業所が年々増加していることから、新たな区立事業所の整備は予定していない。また、区立の療育センターアポロ園と療育センターゆめなりあで行っている言語聴覚士による発語に係る療育に引き続き取り組んでいく。
11月9日	子どもの介護・ケアの負担が重く、家事や仕事をする時間が確保できない。区の支援を利用したいが、仕事をしていないために使えず、仕事に就くことが難しい。重度訪問介護の制度を子どもにも適用できれば、親の就労につながると思う。	重度訪問介護については障害者を対象としたサービスで、原則として18歳から利用可能としている。しかし、児童福祉法の規定により15歳以上で児童相談所長が重度訪問介護の利用が適当と認める場合には、障害者とみなし障害者の手続きに沿って利用することも可能である。
11月9日	希望の日数・曜日に放課後デイサービスを利用することができていないほか、長期休暇は時間も短くなってしまふ。日曜日や祝日も放課後デイサービスに通えると、親としては非常に助かる。	放課後等デイサービス事業所は、夏休み等の学校休業日において、区立は18時まで、民間は16時頃まで開設しているが、ほとんどの事業所が日曜日や祝日は休業としている。今後、新規に開設する放課後等デイサービス事業所や既存の事業所に対して、日曜日や祝日におけるサービス提供の要望があることについても案内をしていく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
11月9日	保育園入園の際、子どもが要配慮児童になると、入所数が極端に制限されているうえ、空き状況の公開もされていない。障害の有無によって保育園への入所機会を制限しないでほしい。	園児の安全を確保するとともに子ども一人ひとりに寄り添った保育を行うため、支援の必要なお子さんに係る利用人員を定めている。各保育園における受け入れ体制確保を目的とした給付費の加算を予定している。今後も、利用人員の拡充に努めていく。
11月9日	行政の情報はホームページや冊子を調べることでしか手に入れることができない。育児と介護に忙しい保護者は情報を取りに行く時間が無く、保護者間で情報格差が生まれてしまっている。LINEなどのSNSを通じて、障害のある子ども向けのサービスに関する情報を区から積極的に発信してほしい。	障害のある子どもが利用できるサービス等の情報は、「障害者福祉のしおり」でご案内するほか、各種申請、イベント、新たなサービスの開始・変更等に関する案内については、その都度区報や区ホームページで発信している。対象の方へ確実に情報が届くよう、SNS等を活用した情報配信について、今後検討していきたい。
11月9日	相談支援は各地域のすこやか福祉センターで、きめ細かく受けられるように体制づくりをしてほしい。また、医療的ケア児の把握漏れが無いようにしてほしい。	すこやか福祉センターにおいては、関係機関と連携し、相談支援体制を強化するとともに、相談事業の更なる周知を図っていく。また、医療的ケア児については、手帳の申請状況や医療機関等との情報共有を通じて確実に把握し、必要なサービスを案内していく。
11月9日	ヘルパーの確保が難しくなっており、介護の担い手不足を感じている。人材確保のためにも、中野区独自で待遇・賃金改善の取り組みをしてほしい。	障害福祉サービスにおいては、人件費を含む必要経費をもとに国が報酬の見直しを図っているため、区独自の助成は考えていない。人材の確保については、区が実施する人材育成研修等を通して、人材の定着をめざしていきたい。
11月9日	行政のサービスや手当が所得制限によって受けられない状況がある。子どもの障害は経済的に負担が大きいため、制限をつけないでほしい。	障害者福祉手当等の各種手当は、対象者へ手当を支給することにより、福祉の増進を図ることを目的としているものであり、この目的に照らして、必要な範囲で支給するため所得制限が設けられている。国、東京都の手当についても所得制限が設けられており、他の手当の状況も含めて慎重に検討をする必要がある。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
11月9日	支援やサービスが子どもの年齢で区切られてしまっている。中学生以降は学童などの預かりサービスを受けられなくなるほか、高校を卒業すると、子どもの頃に受けられていたサービスが使えなくなり、親子ともに負担が大きくなるため、将来に不安を覚えている。通所施設の充実や、ショートステイや一時保護の継続など、年齢による切れ目のない支援をお願いしたい。	放課後等デイサービスについては小学校に就学してから18歳まで利用することができるが、区は、必要とする子どもがこのサービスを利用できるよう、今後も、事業所への財政的支援を行うとともに、新規開設を検討する事業所への働きかけを積極的に行っていく。成人の通所施設については、今後の整備を検討するために、毎年、各特別支援学校に在籍児童の現況調査を実施している。 ショートステイ及び日中一時支援事業については、令和6年度に1床、令和7年度に3床、増設する予定である。令和9年度に開設予定の江古田三丁目重度障害者グループホーム等においては、重度障害のある方の利用を予定している。 自宅等においては、中野区重症心身障害児(者)等在宅レスパイト事業や中野区在宅障害者等介護人派遣緊急一時保護事業などは年齢を問わずに利用できる。 今後も、障害や発達に課題のある子どもに対して、ライフステージに沿った切れ目のない一貫した支援を行える体制の構築に取り組んでいく。
12月21日	今の学校のあり方に子どもたちが不登校になる理由があるのではないかと。子ども目線で学校のあり方をゼロベースから考える取り組みが必要ではないかと。	子どもたちの意見や考え、思いなどを尊重し、その意見等に基づいて、学校が特色ある教育活動を実施したり、学校の環境改善を行ったりする予算措置を来年度に向けて行っているところである。
12月21日	不登校支援の目的は、子どもを登校させる事ではなく、将来的に子どもたちが社会で自分らしく生きていくことだと思う。学校・集団への適応という視点は考え直してほしい。加えて、子どもの不登校は保護者の孤立につながっているため、その視点を含めて支援をしてほしい。	教育委員会では、すべての児童・生徒が自分らしく学ぶことができるように、子どもたち自身が自分で道を選択するための環境づくりを進めている。また、令和6年2月に、学校に行きづらい子どもの保護者を開催し、保護者同士の交流の場を設ける予定である。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
12月21日	スクールカウンセラーが増えるということだが、アウトリーチを検討してほしい。子どもが不登校になっている保護者の話を聞くと、学校から何も連絡がなく残念に感じているという方も少なくない。カウンセラーと学校の連携を緊密にするほか、カウンセラーが保護者に向けてアプローチすることも考えてほしい。	アウトリーチの役割は、スクールソーシャルワーカーが担っている。学校とスクールソーシャルワーカー、増員したスクールカウンセラーが連携し、学校に通いづらい児童・生徒やその保護者に支援が行き届くよう、体制を整えていく。
12月21日	コミュニティ・スクールでは誰がメンバーで、どんなことが話し合われているか、地域に情報が出ておらず、地域に開かれているという印象を受けない。地域からの意見を反映した運営を考えてほしい。	コミュニティ・スクールの実施において地域の協力は重要であると認識しており、モデル実施を進めていく中で、地域の方々への周知方法等についても検討していく。
12月21日	学校から配布されたタブレット端末にYouTubeなどアプリが入っているが、利用の制限は各家庭に任されている。学校でネットリテラシーをしっかりと教育してほしい。	児童・生徒のインターネットの利用時間については課題があると認識している。学校では、SNS学校ルールなどにより、インターネット上での情報の扱いなど、児童・生徒の正しい情報を見極める力の育成を図っているところである。
12月21日	鷺の杜小学校の開校にあたって、西武新宿線の南側から、踏切をわたって登校する生徒が多くなる。特に登校時間中は遮断時間が長いため、短い時間に多くの歩行者がわたることになり、とても危険である。踏切の拡幅について西武鉄道へ打診するほか、早急に跨線橋整備の検討をしてもらいたい。	立体横断施設の設置等、ハード面の整備については、令和6年度に実施する検討業務委託の結果を受けて、出来るだけ早く判断をお示しいと考えている。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
12月21日	初産の親はいつ、どんな事業を受けられ、どんな情報を得ればいいのか分かりづらい。ホームページに時系列で整理されているとわかりやすいと思う。また、各産前産後サポートの事業は、往復はがきや電話で申し込むことになっている。webを利用した申し込みも可能にしてもらいたい。	令和6年3月発行予定の子育て支援ハンドブック「おひるね」に妊娠・出産期からの事業等を時系列に掲載し、PDF版をホームページにも掲載する。 また、産前産後期に受けられることができる事業の情報をまとめた「かんがるーブック」は、妊娠期の面接の際、個別に配布しているほか、区ホームページにも掲載をしている。 子育てに関する各種手続きや相談は、デジタル技術を活用しながら、オンライン申請・相談の拡充に向けて検討していく。
12月21日	子どもが6か月を超えるとデイケアが使えなくなり、1年を超えると助産師訪問も利用できなくなってしまう。「切れ目のない支援」とは言っても、子どもが1歳を過ぎると支援が切れてしまっている。また、第二子以降の子どもに対する支援が少ないのではと感じる。	相談・支援については、1歳を過ぎても引き続きすこやか福祉センターの専門職員が対応しており、いつでも必要な時にご相談をお受けしている。また、児童館等を会場とした地域育児相談会なども地域で実施しているのでご利用いただきたい。 また、第二子以降の子どもに対する支援については、令和5年度から、産後家事育児支援において利用上限を増やしているほか、第二子以降の母親が参加できるBP2プログラムを実施している。今後も支援の強化を検討していきたい。
12月21日	シングルマザーや困難を抱える方にとって、各種講座に参加しづらいと感じることがある。誰にとっても参加しやすい事業にしてもらいたい。	産前・産後の各種講座については、妊娠中に実施しているかんがるー面接で案内しているところである。シングルマザーや困難を抱える方をはじめ、講座に参加したいと思う方が、参加しづらさを感じさせないように、事業内容や対象者への案内の方法を工夫していきたい。
12月21日	江古田地域に子どもの居場所がないと感じている。みずの塔ふれあいの家があるが、小学生の足では少し遠く、行きづらい。週に1日、出張児童館のような形で、区民活動センターを子どもの居場所として活用することはできないか。	放課後の子どもの居場所・遊び場として、学校内のキッズ・プラザの整備を進めてきたところであり、第七中学校区においては、キッズ・プラザ江古田とキッズ・プラザ江原が放課後の子どもの居場所・遊び場としての機能を果たしている。今後、区立江古田の森公園内にて、令和7年度に常設プレーパークの設置を予定しており、江古田地域も含む子どもの居場所・遊び場を充実していく。 また、区民活動センターや他の区有施設を活用した子どもの居場所事業のスポット的な実施などを検討していきたい。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
12月21日	今の家庭環境では、子どもたちが畳や座布団にふれる機会が少ない。高齢者会館にある畳のスペースを残し、子どもが遊ぶ場所としての活用方法を考えてほしい。	高齢者会館については、利用者の要望及びバリアフリー化の観点に基づき和室の洋室化を進めていく。地域の施設において、子どもたちが様々な体験ができるよう運営の工夫をしていきたい。
12月21日	地域包括支援センター・社会福祉協議会の体制強化とあるが、福祉関係の仕事は近年人手不足が叫ばれている。担い手の確保が難しい中、人員をどのように確保していくのか。	社会福祉協議会は令和6年度、権利擁護事業等拡充のため常勤職員を増員する予定である。給与水準は区職員と同程度であり、現状、人員の確保が難しいとは聞いていない。地域包括支援センターについては、職員の離職防止や人材育成、業務内容などを含め、総合的な対策を講じながら、相談支援体制を強化していきたい。
12月21日	国民健康保険加入者の健康診断について、他区に住んでいたときは少額の自己負担で健康診断を受けられていた。中野区では対象年齢に当てはまらず、受診できていない。35歳未満の加入者も受けられるよう、対象の拡大をお願いしたい。	限られた財源の中で区民健診を実施していくため、現在のところ、35歳未満に対して「健康づくり健診」の受診者を拡大することは考えていない。
12月22日	中野区がどのようにゼロカーボンシティを実現するのか、区民目線では分からない。達成に向けた計画を具体的に示してほしい。加えて、区民や事業者に対して、強力な環境配慮の動機付けをするべきだと考える。例えば、小中学校の統廃合で生じた空き地を活用する際、事業者に対して緑化を義務付けてはどうか。	ゼロカーボンシティの実現に向け、区・区民・事業者が取り組む事項を具体化した脱炭素ロードマップを令和6年度の早期に作成し、さらに周知を図っていく考えである。また、一定規模以上の敷地に建築物を建てる場合は、緑化計画の提出を通じて、みどりの確保に努めている。
12月22日	区民自身が環境問題について考え、議論する場として、環境ワークショップを開催してもらいたい。	環境問題について区民の皆さんに考えていただける機会については、毎年開催しているなかのエコフェアを中心に、様々な場面を活用して設けていきたいと考えている。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
12月22日	中野区がプラスチックごみの分別・資源化に取り組んでいるのかが分からない。区の職員一人一人が、環境配慮の視点をもって業務に取り組んでいるのか。また、区民にもごみの分別を意識してもらうために、区が路上にゴミ箱と監視員を配置すべきだと思う。	「中野区プラスチック削減指針」において、区が主催するイベントや会議において、使い捨てプラスチック製品・容器包装の使用を可能な限り削減することや、職員一人ひとりがマイバックやマイボトルを活用することを行動指針として定め、全庁を挙げて取り組んでいるところである。 区民へのごみ分別の意識醸成として、新庁舎においても資源回収ボックスを配置するなど、区内に資源回収拠点を複数設けることで、資源循環に対する啓発を引き続き行っていく。
12月22日	中野駅新北口のまちづくりで、環境への配慮はされているのか。建設期間及び整備後のCO2排出量の抑制が具体化されないまま、計画だけが進んでいる。まちづくり全体のなかで、どのようにCO2排出を減らしていくつもりなのか。	新北口再整備の拠点施設は、環境性能についてZEB Orientedの認証取得を実現する予定であり、施設計画が具体化していくに従い環境配慮の視点についても盛り込んでいく考えである。 脱炭素に向けた定量指標として、代表建築物に関する環境配慮計画を建物の規模に応じて作成することとなっており、建築物の省エネ性能をはじめ、具体的に示していく予定である。
12月22日	旧中野刑務所正門の文化的な価値を、より多くの方に知ってもらいたい。新庁舎の中に門の歴史や価値を伝えるコーナーを整備するなど、区として情報発信に力を入れてほしい。	旧中野刑務所正門を広く知らしめていくことは、重要なことであると認識している。正門に関する情報発信の在り方については、今後検討してまいりたい。
12月22日	子どもが文化・芸術活動をする場所がないと感じている。アトリエZEROには水場が無く、絵具が使いづらいほか、公園や区民活動センターは汚さないように配慮して使わなくてはならない。汚してもいい施設・場所ができたり、ルールの改善はしてもらえるのか。	アトリエZEROは本年6月にオープンし、現時点では、より良い運営を探りながら稼働している状況である。ご意見を踏まえつつ、より区民が様々な文化・芸術に触れられる場所となるよう、運営の改善に努めていく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
12月22日	区民活動センターや産業振興センターは窓口でしか予約できず、利用しづらい。施設予約システムの導入は2025年度を予定されているが、もう少し早く導入できないか。並行して、現行の予約方法を見直し、可能な限り簡略化してほしい。加えて、区内で活動する団体に意見を聴き、ルールの見直しやシステムの構築に反映させてほしい。	公共施設の利用予約については、令和6年度から対象施設の拡充、オンライン・キャッシュレスによる使用料支払機能、手続きにおける電子化の推進、施設予約ルールの標準化などを検討している。今後、区民の意見を聴きながら、施設予約システムの構築を進めていく。
12月22日	西武線沿線のまちづくりは、区民の声を聴きながら進めてほしい。線路を地下化する区間がある一方、野方から西は線路が高架化され、立ち退きの話が出ていると聞いた。同じように地下化の手法でまちづくりを進めてほしい。	西武新宿線沿線のまちづくりはこれまで地元まちづくり検討組織等と協働しながら進めてきた。今後も地域住民の方と意見交換を行っていく。 西武新宿線の連続立体交差事業(野方駅～井荻駅付近)の鉄道の構造形式は、東京都において検討中と認識しており、鉄道の構造形式によらず、まちづくりの検討を進めていく。
12月22日	なかのZEROでイベントがあると、千光前通りが歩行者で混雑する。中野駅にもみじやま側の改札を整備することで、混雑を解消し、駅の利便性を向上させてほしい。	利便性を踏まえると必要性が高いと思われるが、現在中野駅では西側の南北自由通路の整備を行っているところであり、JRとの協議調整は入口にも立っていない状況である。 中野駅地区整備基本計画(平成30年11月策定)に記載しているデッキ歩行者動線(構想)の検討段階において、関係機関協議を行っていくこととなる。
12月22日	これから施設の統廃合を進めていく中で、維持管理の合理化と区有地の有効活用のため、複合施設の整備を進めてほしい。具体的には、南台では高齢者会館や南台小学校、南台図書館が複合化できると良いのではないか。	区有施設の再編や更新にあたっては、集約化や複合化、長寿命化等の様々な観点から検討していく。
12月22日	首都直下型地震は今後必ず発生する。今後も防災対策をしっかりとやってもらいたい。	中野区防災会議において、首都直下地震等の大規模な地震発生に備え、中野区地域防災計画を策定し、震災予防や防災対策等を定めている。また、防災計画は、東京都の公表した最新の被害想定を反映して、現在修正しており、今後も計画に基づいて防災対策等を充実していく。